

1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 8月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	1173200906
法人名	株式会社 彩香らんど
事業所名	グループホーム彩香らんど「田舎の家」
所在地	〒355-0323 埼玉県比企郡小川町下里706-1 (電話) 0493-71-3117

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
訪問調査日	平成20年8月7日

【情報提供票より】(平成20年7月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算 4.05人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	500 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日あたり 円		

(4) 利用者の概要(7月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人順浩会 野崎医院、医療法人いとう歯科クリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、「住みなれた地域の中で、その人らしい生活を送れるように 優しい目と心で支える ゆっくり 一緒に 楽しく」というケア理念に基づいて利用者の支援に取り組んでおり、利用者の方々の表情からは、とても穏やかで落ち着いた様子が伺える。また、様々な利用者を受け入れ、地域の一員としての活動にも参加して連携に努めている。職員は、食事の際に利用者と一緒に準備を行うなど、利用者の力を活かしながら役割や楽しみごとをもてるように支援している。利用者と職員が一緒に時間を過ごす中で、共に喜び支えあう関係を築きながら、きめの細かいケアをすることで、心身ともに安定して生活している様子が見受けられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題については、職員間で話し合わせ、吟味している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、職員全員で話し合っ作成し、スタッフ会議等で検討している。また、外部評価の結果については、食堂に置いてある面会者名簿の隣に添えることで、家族がいつでも見ることができるようになっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、2か月に1回開催されている。会議では、利用者の状況や行事等の報告をしており、また、毎回決められたテーマについて話し合いながら意見を出し合っ、議事録も丁寧にまとめている。認知症の方々を介護してきた家族は、呼びかけとすぐ来てくださり、家族会を育て、その力を活かして職員と一緒に取り組んでいる。職員から呼びかけると応えてくれる家族会や区長の功績が大きい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情相談窓口を設け契約時に案内するとともに、運営推進会議や家族会を活かして発言できるように機能させ、意見等を出してもらっている。秋祭りを250名規模で行うなど、家族会の力を生かして様々な意見を出してもらいながら行事など進めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>施設長が社会福祉協議会に勤務していたこともあり、地域とのつながりを活かして、地域に溶け込んでいくように努力している。月1回行われる道路清掃に参加したり、散歩の際には地域の方からお花を頂いたりしながら、地域の一員として地元の人々との交流を図り、地域との連携に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	小川町を中心として都幾川町、嵐山町を含めた地域の核として地域活性化を目指し、地域にしっかり根づくことを事業所の理念として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議の際に管理者が話したり、日々の職員の利用者との係わりの中で声かけをすることで、職員に理念を浸透させ、実践に向けて意識の統一を図りながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長が小川町の社会福祉協議会に勤務していたつなかりを活かして、地域に溶け込んでいく努力をしてきた。散歩の際に、地域の方からお花を頂いたり、月1回の道路清掃にも参加したりすることで、地域の一員として地元の人々と交流するように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、スタッフ会議等で検討している。また、自己評価及び外部評価は、家族が面会に来た際に閲覧できるようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開催されている。会議では、利用者の状況や行事等の報告をするとともに、毎回決められたテーマをもとに話し合い、議事録も丁寧にまとめている。職員から呼びかけると応えてくれる家族会や区長の功績が大きい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談等がある際は、役場に出向くなどしてアドバイスをもらうようにしており、役場との連携は取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の中には、彩香らんどの在宅サービスを利用していただいている方が多いこともあり面会者が多い。利用者の状況等については、面会時や家族会の集まりなどで報告している。来られない家族に対しては、手紙または自宅を訪問して伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で発言できる場を設けるとともに、家族会を活かして意見等を出してもらっている。家族からは行事の企画についての色々な意見を聞いており、秋祭りでは250名の参加があった。また、苦情相談窓口もあり、契約の際には案内している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなく、やむを得ず離職する場合は、顔馴染みの職員によるケアの継続に心がけ、ダメージを防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回研修会を開催している。施設長は、管理者がスタッフの教育をすることができるように育成している。また、介護福祉士やヘルパーの資格取得に向けた支援体制がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北部のグループホーム協議会に属し研修会に参加したり、町内の他のグループホームを見学するなど、交流する機会をもつようして意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族との契約の際、十分に時間を取って、丁寧にアセスメントし、ニーズを理解した上でサービスを開始している。訪問介護や通所介護など、同じ事業所のサービスを利用して入居するケースが多く、馴染みの関係が作りやすい環境にある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>植木の水遣りや洗濯物たたみ、食器拭きやお絞りたたみ等、それぞれの得意分野を活かせるよう努め、共に喜び支え合う関係づくりに留意している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時の情報や日々のケアの中で本人の思いや意向の把握に努めている。駅前まで買い物に行ったり、コーヒーを飲みに行ったりしており、集団ケアで終わるのではなく、利用者一人ひとりが主人公になれるようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全体像を把握しやすいアセスメント表を使用し、個別かつ具体的な介護計画を作成している。月1回の職員会議で出された意見や家族の意見を取り入れた計画になっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じた見直しはされているが、状態変化に応じた見直しや、変化が見られない場合の見直しは不十分である。</p>		<p>利用者の状態に変化が生じた場合は随時見直しのうえ新たな計画を作成するとともに、変化が見られない場合でも月に1回程度の見直しを行い、記録に残すことが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診支援や家族の宿泊への便宜を図るなど、臨機応変に対応している。また、デイサービスなど多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院介助を職員がしている。入居時に、利用前のかかりつけ医か契約医療機関のどちらにするか選択してもらっている。入院した場合は3日に1回洗濯物を取りに行く支援もしている。20年7月から入院設備のある病院と契約を結び往診してもらえるようになった。また、その系列の訪問看護ステーションとも契約を結び月3回派遣してもらうことにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日々健康管理に留意し、家族やかかりつけ医と話し合っており、急変時への対応について学習・訓練をしている。しかし、重度化や終末期の対応について、関係者との話し合いは不十分である。		事業所の運営方針を明らかにするとともに、終末期の方を対象にしない場合であっても、本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医や関係者との話し合いを繰り返し行って、方針の共有化を図ることが期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレは扉が閉まるようになっているが、介助が必要な場合の対応として、扉は開けていても、外から見えないように、カーテンを設置するなど、プライバシーを損ねないように配慮している。また、個人記録の管理も適切に行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝等一人ひとりのペースを大切に、その方のスケジュールを尊重している。晩酌についても医師に相談しながら認めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、おしぼりづくり、配膳、食器拭きなど、利用者の力が発揮できるように支援するとともに、利用者と同じテーブルを囲み、楽しく食事できるように配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週3回は入浴できるようにしている。利用者の希望に合わせて朝から夕方まで入浴することが可能であり、3人が入ったら、お湯を変えている。また、二人介助の方や怪我をしている方の場合には清拭をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の希望を尊重し、読書や習字等、得意なことを活かしながら楽しみごと等のある生活を送れるように努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には買い物に出かけたり、散歩コースを決めて行っている。また、花見などへ出かけ、季節を感じられるような外出支援もしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵を掛けておらず、見守りしながら利用者の自由な暮らしを支えている。夜間のみ鍵を掛けている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署や地域の協力・参加を得て避難訓練、消火器の使い方の訓練を実施している。また、夜間を想定した訓練も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人台帳に食事と水分摂取量の記録を付けて管理している。嚥下障害のある方には、お茶やゼリーを作って摂取してもらうことで水分確保ができるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	板張りに見える壁紙が各室ともあり、居室からはログハウスのような雰囲気を感じられる。廊下にはボランティアによる写真が掲げてあり、また、1月には繭玉のお団子を皆で作って飾ったりと、季節感を味わえるように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談・検討しながら、利用者それぞれ使い慣れた馴染みの家具、人形、写真等を持ち込んで、安心して暮らせるように工夫している。		